

宋毓敏山水画展

宋毓敏

宋毓敏山水画展

後援＝中華人民共和国駐福岡総領事館文化部
財団法人 福岡国際交流協会

1988年7月11日(月)～7月17日(日)
11:00am～7:00pm 最終11:30pm

ギャラリー おいし

〒810 福岡市中央区新天町南通 電話092(721)6013

ごあいさつ

芸術に国境なく、芸術は人類の貴重な財産であります。この度、日本において私の画展を行う機会を得ましたことを、日本の皆さま、芸術愛好の方々に対し心から感謝をいたします。絵画は美の表現であり、美は至る所に在ります。もし美が見えないとすれば、それは自らが美を発見しないからです。画家は時代の中で持てはやされるだけでなく、生活美の開拓者でなければなりません。美は深く内在するものであり、無限です。それは芸術家の真摯な心、大きな勇氣、深い知恵により、一つ一つ探し出されるのです。私は38年間描き続けて来ましたが、この年月は暗闇を辿るが如き摸索あり、言葉では云い現わせない妙味との出会い、魔力とも云える色の世界も知る中で、私は追求すべき何物かを感じとりました。長い写生行の中で自然と対峙し思う時、連なる山々からは力強い旋律、せせらぎの音からは歌声を聴き、私の追求心は、いやが上にも高まるのです。私の師である張歩先生は私の画集に「痴思長繩系日」の六文字を贈って下さいました。この言葉はその師、李可染が張歩先生に贈り、李可染師もまた、その時代の大師齊白石からこの言葉を受けついたので。素晴らしい言葉は伝来の家宝の様に伝わります。しかし安易に言葉の意味を解釈するだけではなりません。私は、この言葉を「時を掴みとり、そして、ひたすら歩め」とし、自覚精進しております。中国の国画は明清以来成熟を遂げ、先師たちは、その画業を私たちに受け渡しました。「時代の審美眼に応え、己れを囲む世界を表現し、人の心を揺るがすものを掘り起し、そこから自己の理想の境地を画き現わして行く」これこそ私が、皆様にお伝えしたいことであります。

1988年7月

宋 毓 敏

国画と山水を愛する画家

李秀忠

私は、関東の国画家、宋毓敏氏と知り合って、すでに20数年の交友が続いております。彼は専門の学卒ではなく自分で学び才を成した一人の芸術家であり、国画を愛し山水を専門として来た画家でもあります。宋氏は華北の平原生まれ、東北の山あいでも育ちました。このことが彼の芸術と深く結びついております。故郷を想う強い思い、愛する心が激しく彼の創造をかきたてるのです。ひと度、筆をとると、潜在しているこれ等の思いが奔流となり、とどまる所を知らず、苦心、熟考の末、現われる画想は溢れんばかりの想像力と創造力により観るものを圧倒します。到達を目指す中での思わぬ喜悦、いらだち、くりかえされる失敗、心技一体の成果などは彼自身を芸術の迷宮に引入れ、彼はその陶醉の中で心身の平衡を失って行くのです。その果に彼の芸術は生まれて来るのでしょうか。彼は、この様な紆余曲折(揺らぎ)を経ながら中国画壇に登場して行くのです。これは多くの画家と同じ歩みかも知れません。彼の山水画は気宇壮大であります。奇をてらわず平凡の中の非凡、明るく晴れやかでありながら重く鬱屈しており、また、野趣豊かなものがありますが、これこそ彼の作画姿勢であります。大自然に対し素直に相對する心は誠実な人柄の反映でありましょう。彼の生活の場は遼東の山

題 字

張 歩

北京画院副院長

中国美術家協会会員

[河山画会]会長

あい、雄渾な関東の山水、北国春秋の風景の中です。その筆勢は強く地獄的な姿、個性を現わしているばかりでなく、人をしてその心に充足感と豊かさを感じさせるのです。

宋氏の作品は多くの機会を得て、西ドイツ・イタリア・ソ連・蒙古・香港の各地で展覧され、日本における、大中国展・日中国交回復15周年画展・日中美術交流協会が主催する度々の巡回展において、高い評価を得、また、諸外国でも作品は求められ収蔵されております。このことは我が国における現在の文化状況の中にあつては、真に貴重な得がたいことであります。このところ彼の創作意欲は益々旺盛であります。

この度、宋氏の日本での展覧会が多くの人々、芸術愛好家に喜んで戴けるであろうと信じると共に、展覧会の成功を祈念するものであります。

1988・6月 於 半人書屋

中国美術家協会遼寧分室秘書長

中国美術評論家

宋毓敏画師の個展に寄せて 横江敏夫(柏峰)

宋毓敏君が福岡で個展を開くことになった。彼は早くから「中国—日本美術交流協会」が日本各地で開催している「中国美術交流巡回展」に参加して多くの日本人から、その存在を認められ、高い評価を受けている画家の一人である。

彼の作品は強烈な時代感覚を備えながら、精神性の高い作風は観る人に爽やかな印象と深い感銘を与えている。彼は中国伝統の画人であり、中国画の継承者でありながら、果敢に新しいものに挑戦する開拓の勇者でもある。その作品は奔放自在に筆を揮う、独自の色彩感覚で鮮明な表現を試みているが、その根本に流れているものは写形より写意を重んずる東洋画の真髄に迫っている、それ故に文学性に富み詩情溢れる香り高いものとなっているのである。現代中国文人画家の鬼才として国内外の展覧会に発表され、美術館、博物館に収蔵されている作品も少なくない。彼の画が必ず多くの日本の方々の深い共感を得るものと信じている。

1988 桜花の季節 於 柏峰山荘

中国日本美術交流協会会長

日本中国水墨交流協会理事

日本南画院評議員



軸式3. 記憶中的家鄉



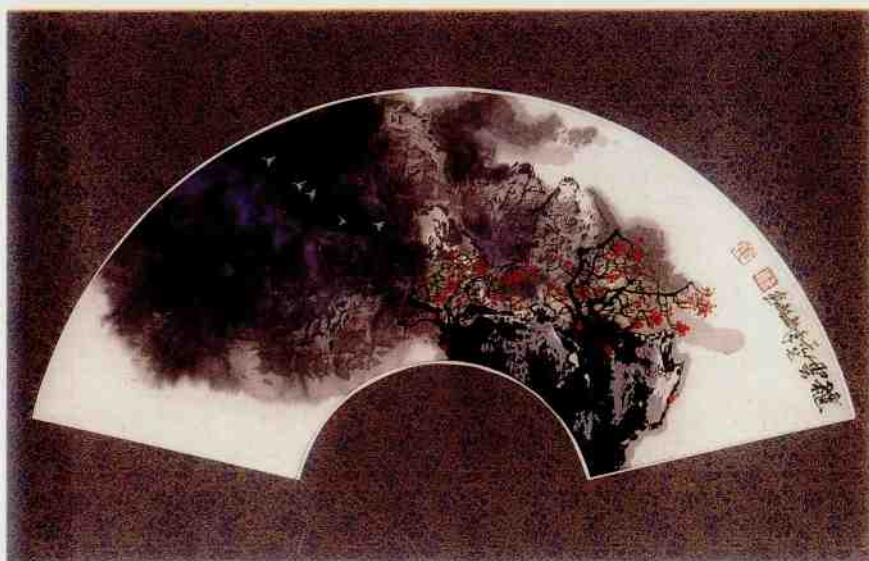
軸式6. 湘西金秋

軸式

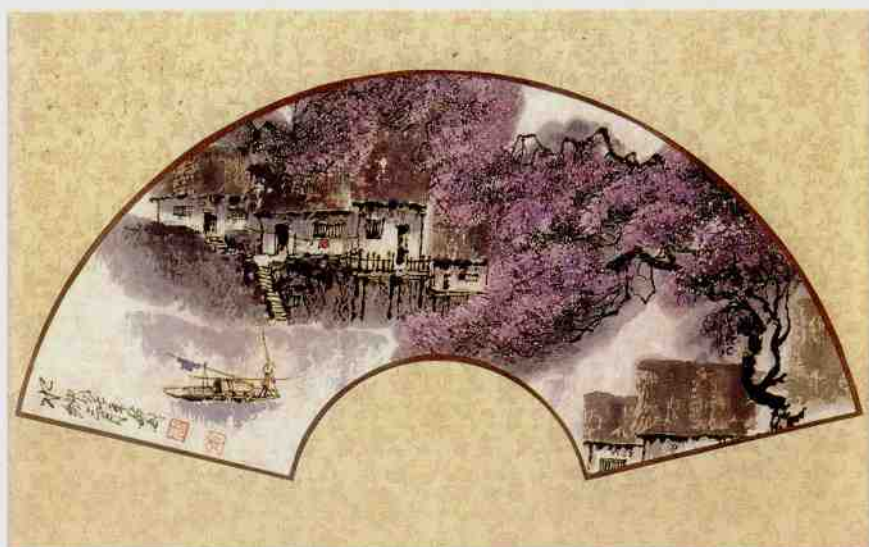
- | | | | | | |
|------|---|------|---|---|---|
| 1. 觀 | 面 | 6. 湘 | 西 | 金 | 秋 |
| 2. 大 | 別 | 山 | 金 | 色 | |
| 3. 記 | 憶 | 中 | 的 | 家 | 鄉 |
| 4. 晨 | 霧 | | | | |
| 5. 輕 | 舟 | 已 | 過 | 萬 | 重 |
| | | | | | 山 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

扇式

- | | | | |
|------|---|-------|---|
| 1. 秋 | 雪 | 6. 小 | 靜 |
| 2. 淡 | 舟 | 7. 水 | 鄉 |
| 3. 古 | 柏 | 8. 山 | 村 |
| 4. 萬 | 山 | 9. 傳 | 家 |
| 5. 野 | 趣 | 10. 清 | 涼 |
| | | | 台 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |



扇式1. 秋雲



扇式21. 水鄉三月

- | | | | | | |
|----------|----------|----------|------------|----------|----------|
| 11. 樓林隱紅 | 16. 江河聯源 | 21. 水鄉三月 | 26. 林深潭靜 | 31. 水鄉隱 | 36. 龍松隱 |
| 12. 始雲峰 | 17. 江江霧 | 22. 像家竹 | 27. 記憶中的故鄉 | 32. 蛾眉樓 | 37. 映日荷花 |
| 13. 南山春 | 18. 橋溪園 | 23. 青山碧 | 28. 家門印無 | 33. 笛聲溪山 | 38. 深秋鶴語 |
| 14. 長城遙 | 19. 黃山霧 | 24. 鶴水曲 | 29. 故鄉的小河 | 34. 笛聲溪山 | 39. 細雨濛濛 |
| 15. 江畔小村 | 20. 六曲欄杆 | 25. 竹鄉 | 30. 真林隱 | 35. 水鄉小鎮 | 40. 清溪 |



片式A1. 楓溪



片式B 16. 二月菜花黃



片式A6. 花溪落日



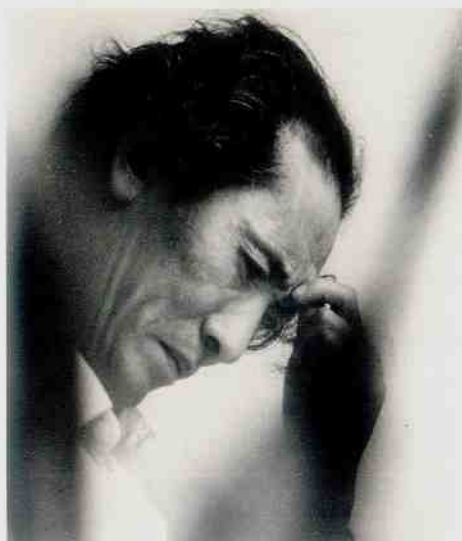
片式B 15. 春風

片式A

- | | |
|----------|----------|
| 1. 楓溪 | 6. 花溪落日 |
| 2. 峰疊翠欲流 | 7. 霧峨巒 |
| 3. 一石驚飛鳥 | 8. 嚴冬十月 |
| 4. 樵路深夕 | 9. 秋聲 |
| 5. 松立清泉 | 10. 綠染青山 |

片式B

- | | | | |
|---------|------------|--------------|-------------|
| 1. 野花 | 6. 積雨林暗面垂泉 | 11. 農家小院 | 16. 二月菜花黃 |
| 2. 鷺 | 7. 鹿鳴秋 | 12. 冬趣 | 17. 峨眉花橋 |
| 3. 臨塘小鎮 | 8. 湘西蟹勝 | 13. 山溝里的筆墨遊戲 | 18. 太行山印象 |
| 4. 農忙 | 9. 花溪 | 14. 江南小鎮 | 19. 黃上枝頭已知秋 |
| 5. 山氣 | 10. 蒼岩紅葉 | 15. 春風 | 20. 初雪 |



宋 毓 敏 画 歴

1940年

中国河北省 雄県に生まれる。

1960年

遼寧省本溪市、芸術学校(舞台美術科)に学び、卒業後本溪新劇団の美術担当となる。

1969年

美術設計師の資格を得る。同時に中国伝統絵画の研究を続ける。

1975年

本溪歌舞団の美術設計師となる。絵画も積極的に発表、各地で好評を得る。

1979年

遼寧省美術家協会賞受賞。

1981年

作品が、香港・西ドイツ・イタリアにて展示される。

1983年

北京中国画院にて張歩先生に師事、山水画の研鑽をつむ。

1985年

中国对外展覽公司による「現代中国画展」に入選、作品が蒙古において展示される。

また、「日中美術交流展」に参加、兵庫・鳥取・倉敷・徳山・福知山・高知・佐世保の各地で展覧。

1988年

遼寧省第二回中国画展において、優秀賞受賞。

大阪府守口市における「日中百名画家」展に出品。7月福岡市「おいしギャラリー」において「宋毓敏山水画展」を開催。

役職名

中国美術家協会遼寧分会々員・遼寧省中国画研究会々員
本溪市舞台美術学会秘書長・本溪市中国画研究会秘書長

住 所

中華人民共和国

遼寧省本溪市平山区向前街3組A袖口3-5 TEL45874

あとがき

中国東北の地は私が生をうけた所である。本溪は1946年、再び見ることはないであろうとの思いを残しつつ去った土地である。宋氏は、その本溪在住の国画家で、経歴に示されている様に、ひたすら絵を描いて来た人である。大変研究熱心で、その歩みは齊白石、李可染、張歩という優れた先輩、師の道をたどり山水画の境地を深め多くの佳

作を生みだしている。宋氏の芸術を多くの日本の人に観て頂きたいとの思いがつのり、今回の個展となった。私ごとき一個人が、ささやかではあるが中国画家の個展を行うのは、国と国の友好があれば、個と個の友好もある、と考えているからである。

1988・6月 福岡在 大坪 浩

J222.7
901



発行 1988年7月10日

編集 大坪 浩

印刷 秀巧社印刷株式会社